

安全・安心なまちづくりを目指して

ふくい防災マップコンテスト報告

福井県防災士会 会長 荒木 俊幸

1. はじめに

6年前の2004年に福井豪雨があり、その直後に防災・減災に関する支援について触れたことがある。そのなかで教育や啓発の必要性を考察したとき、DIGによる実習とともに防災マップの作成などが、その居住地域の状況把握という点で有効であるとあげたことがある。

2008年8月ハザードマップに関する研修会において、ハザードマップの小縮尺なものに対して、地域住民あるいは地域の実スケールにあった防災マップの必要性を指摘する意見があった。

2008年12月には、知人との会話の中で、国・県などの公共団体の行なうハード面での防災・減災の取り組みには一定の評価がなされているけれども、一方で地域住民あるいは地域においては、自主防災組織の組織率は高くなったことなどがみられるものの、防災意識の向上などを促進するものには何があるかという話題になり、そこで生まれたのが防災マップのコンテストのアイデアである。

2. 概要

目的は、「福井県内の町内会、自主防災組織ならびに個人を対象に、自作の防災マップのコンテストを実施し、優秀作品を表彰する。その作成および利・活用のノウハウなどを公開し、伝え、防災意識の啓発・向上に寄与すること」である。対象（参加資格）は、「福井県内在住あるいは在勤・在学の個人あるいは団体（自主防災組織など）」である。

実施団体の内訳は、主催は、福井県防災士

会、共催は、日本防災士会、福井工業高等専門学校地域連携テクノセンターであり、後援としては、国土交通省近畿地方整備局、福井県、福井市、(社)北陸建設弘済会、(財)北陸郵便局長協会、全労済福井県本部ほか、福井県内のマスコミ各社の参加協力を得た。

日程は、募集期間：平成21年4月20日～7月31日として、本審査：平成21年8月30日13:00～16:00に、AOSSA（アオッサ）706・707会議室で、書類審査とプレゼンテーション（10分）により選考を行った。

審査項目は、5つの項目であり、これに従って審査を行った。

- ① 『テーマと目的（全体）』マップを利用する対象者、利用の目的、そしてマップのテーマが明確になっているか。
- ② 『表現の工夫（見た目）』マップに書かれた地図や図表、文章の表現が明確で分かりやすいか。また、それらのバランスが取れているか。
- ③ 『情報（内容）』マップに必要な地域情報と防災情報の質と量が十分に収集されているか。
- ④ 『提案性（価値）』マップの利用が地域の防災力強化や住民の防災意識向上につながるメッセージが込められているか。
- ⑤ 『独創性（アイデア）』マップに斬新なアイデアが取り入れられているか。

3. 応募状況

コンテストには16の応募があり、うち本審査に臨んだものが11あった。以下に、マップ名称、団体名・愛称、発表者（敬称略）を示す。

	マップ名称	団体名・愛称	発表者（敬称略）
[1]	鯖江市上氏家町防災マップ	上氏家町	大艸民義
[2]	社南地区洪水避難地図	社南地区自主防災会連絡協議会	桶谷忠義
[3]	勝山市芳野町七芳会防災マップ	芳野町自衛消防隊七芳会	松村誠一
[4]	急がば周れ!! 地震時避難支援マップ	福井高専江本研究室	土嶋雄介
[5]	円山地区災害時避難マップ	円山地区安心安全まちづくり委員会	清水清和
[6]	福井高専洪水避難ちーず	うっちっち〜ず	内田裕貴
[7]	糺町ハザードマップ	糺町自主防災組織	小林幸只
[8]	社南地区災害時情報マップ	社南地区防災アマ無線クラブ	山田健治
[9]	いとよ町防災マップ	いとよ町自主防災会	青木武次
[10]	足羽地区防災Map	足羽地区自治連合協議会	事務局
[11]	福井県敦賀市関地区防災マップ	敦賀市関区	事務局

4. 当日の様子

平成 21 年 8 月 30 日（日）13 時から、福井市・JR 福井駅東の AOSSA（アオッサ）706・707 会議室において、開会の挨拶、審査委員の紹介のあと、本審査が行われた。

別会場で審査委員による協議が行われているあいだに、（財）市民防災研究所・理事の池上三喜子氏により『地域で防災！あなたが力みんなが力』の講演が行われた。



主催者代表の挨拶

ふくい防災マップコンテスト
審査会・講演会のご案内

日時 2009年8月30日(日)13時～
場所 AOSSA7階

第1部 13時～14時30分
防災マップコンテスト
プレゼンテーション・審査会

第2部 14時40分～15時40分
講演
「地域で減災！あなたが力 みんなが力」
講師 市民防災研究所理事 池上三喜子氏

第3部 15時40分～16時
審査発表

参加者先着100名様に防災グッズ

問合せ先：福井県防災士会「ふくい防災マップコンテスト」係
〒916-8507 福井県鯖江市下町 福井高専内
TEL:0778-82-8302 FAX:0778-62-8302
Eメール:bousaisi@fukui-net.ac.jp
URL : http://toshicham.be.fukui-net.ac.jp/bousaisi/



会場の様子

当日のチラシ



プレゼンテーションの様子



池上三喜子氏による講演

5. 主な各賞の紹介

以下に三賞と二作品を示す。すべて両面に印刷されていて、『いとよ町防災マップ』以外片面のみ示している。

【防災まちづくり賞】

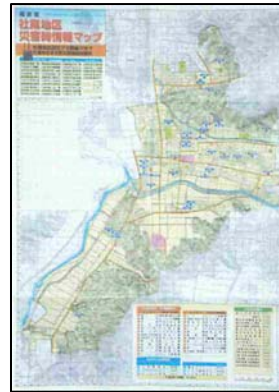
円山地区安心安全まちづくり委員会
『円山地区災害時避難マップ』



(59×84 cm)

【防災アイデア賞】

社南地区防災アマチュア無線クラブ
『社南地区災害時情報マップ』



(84×59 cm)

【防災デザイン賞】

社南地区自主防災会連絡協議会
『社南地区洪水避難地図』



(81×58 cm)

【国土交通省近畿地方整備局長賞】

いとよ町自主防災会
『いとよ町防災マップ』

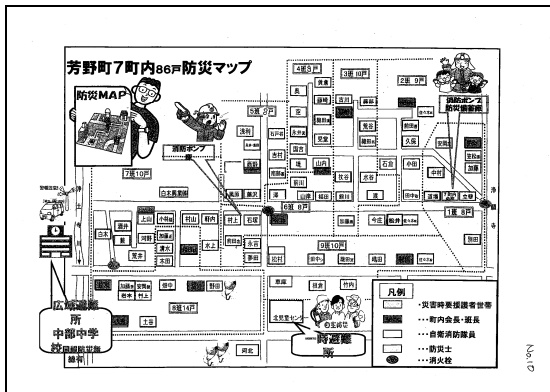


(30×21 cm)

【福井新聞社賞】

芳野町自衛消防隊七芳会

『勝山市芳野町七芳会防災マップ』



(21×30 cm)

6. アンケートの結果

(1) 応募者（団体）の属性にみる防災マップの動向

防災マップを作成した団体の大半は地域の自主防災組織であり、大きく町内会レベルと公民館レベルに分かれた。結果によると、前者の大半は100世帯程度を対象地域とし、後者は1000世帯を大きく上回るものが多くみられた。後者のような大規模なマップづくりにおいては、強力な組織体制と相応の大きな財源が求められる。これに対し、前者のような小規模コミュニティでは数名（1名の場合も有り）のリーダーシップに導かれて、あるいは担当者の専決に依存することが多いことが判った。

(2) 作成期間と経費にみる防災力の持続性

作成期間ならびに経費についての調査結果から、上述と同様、コミュニティの規模に応じて作成期間や経費が大きく異なった。公民館レベルを対象とした場合は、ハザードマップの縮小版としての意味合いが大きく、時間をかけて作成し、完成版の印刷と全戸配布による周知方法を採用。印刷などには行政の助成金を充てることが多く、プロジェクト的にマップづくりが展開されていた。これに対

し町内会レベルの場合、予算規模も小さいことから成果が不完全なものであることを容認し、引継ぎ（更新）を想定した継続スキームまで考慮されていることが特筆すべき点であった。その背景には、毎年役員が交代する組織の仕組み上の課題も内在していた。

(3) マップの利・活用

大規模なコミュニティ（団体）の場合、上述のようにハザードマップと同様印刷体の全戸配布で完結し、必ずしもフォローアップが十分でないこともある。しかしながら、コンテストで表彰を受けたことを新聞などで紹介されたことが、受賞した団体に限らず周辺団体への刺激となった事例もある。中には受賞の披露を兼ねてフォーラムを企画することで周知を図る例もあった。その他、様々なイベントの中にマップを利用する機会を積極的につくるよう努めるといった意見もみられた。

7. 成果と課題

平成21年10月に、入賞作品の主要スタッフに対して、これまでの経過など（作成時の課題などを含む）、組織・運営、マップ利用状況・経過、今後の予定、マップコンテストに対しての意見などの項目について、ヒアリング調査を実施した。その後平成21年12月5日（土）意見交換会が、①防災マップ作成過程の課題と改善策について、②防災マップの利・活用法について、③自主防災組織などの地区内の人材育成との関わりについて、④その他について、行われた。

(1) 防災マップとハザードマップの差異の抽出について

防災マップそのものの属性に関する事柄について述べる。

ハザードマップは、国の方針により、市町村ごとの整備が進められているところである。その行政区域の広狭によって差異があるが、

市町村をいくつかの地域に分けて、作成されている。

今回の防災マップコンテストを通じて抽出されたものの1つは、階層性である。

仮に防災マップ(町内会・自治会レベル)は、数100世帯、防災マップ(公民館レベル)は、数1,000世帯を対象とする。今回のコンテストでは、奥越地区からの防災マップが町内会・自治会レベルであり、際立った特徴として、対象世帯数が100世帯であることに加えて、住宅地図に近い表現形式を持っていること、そして作成期間が短いことである。

階層間において、その役割などの相互補完性が求められる。ここでは、危険箇所の表示と災害時要援護者についてふれる。

防災マップの作成においては危険箇所の表示などで、地域住民への配慮があり、表現しづらいことがある。災害の発生時における避難行動において、災害時要援護者などの個人情報的重要性がいわれているが、ハザードマップはマクロ的で扱うことのできない情報であり、防災マップ(町内会・自治会レベル)は、

慎重な扱いが保障されれば有効である。情報としては(セミ・)クローズドな扱いがされることになる。

(2) マップコンテストを通じて見出されたこと

a) 作成目的の多層性について

今回のコンテストの目的に、防災意識の向上などをあげていた。

2004年の福井豪雨を受けて、県内の市町でも自主防災組織の組織率が高くなっているところであるが、自主防災組織の一部においては、その活動面では十分な具体性を持つものになっていないところがあり、それに対しては、活動の項目として提示した側面もある。

ヒアリングを通して、防災マップの作成が、自主防災組織の活動の主たるものではなくて、市の防災資料の講習や避難訓練などを現時点では重きを置いているという意見もあった。

一方で、各団体のプレゼン発表やヒアリングを通じて、地域住民間のコミュニケーションの促進や新規参入者との関係づくりをあげている地区もあった。具体的には地域内に新たなマンションや住宅地ができて、もともとから

観点	防災マップ(町内会・自治会レベル)	防災マップ(公民館レベル)	ハザードマップ
対象 ・ 世帯数(概数) ・ 縮尺	数100世帯 大縮尺的・ミクロ的	数1,000世帯	数10,000世帯以上 小縮尺的・マクロ的
作成の主体	近隣の地域住民	地域住民	市町村などの行政
作成の動機など	自発による 自ら得る・能動的	自発による	上意による 与えられる・受動的
情報の管理・所在	近隣の地域住民などのPC	地域住民などのPC	市町村などの行政
個人情報のあり方	扱うことがある	扱うことが少ない	扱うことがない
更新性の難易	易		難
更新期間の長短	短		長
利活用の難易	易		難
力点の差異	支援リソース 要援護者		被害予想

ハザードマップと防災マップの比較対照表

いる住民間とのあいだのコミュニケーションを図るという目的である。

その作成過程で、地域住民を巻き込んでいくことを模索する地区もあった。行政やコンサルタントでは、地域状況の詳細な把握は望めないとして、地区住民の目線で作る方針で進行した地区もあった。

b) 活動主体が地域住民であることについて

これには、地域住民同士の顔や特技を知る機会になり、災害発生時にスムーズな呼びかけや助け合いが図られること、川に近い地区とか、傾斜地が多いとか地域の持つ特性を実体験的に把握することができること、「自分の地域は自分たちで」という“自助”の考え方が生まれ育つことなどの有効性・メリットなどが考えられる。

また、地域の防災担当者の前任者から後任者への引継ぎ時に、チェックなどを含めて現状把握の基礎資料としての有効性や前年度より改善点を増やすことも考えられる。

c) 広報・啓発について

コンテストで、県内の防災マップを一堂に会して互いに“見る”ことによる、それぞれのノウハウの共有やさらなる向上の機会を提供することができたことである。

その後公共施設などでの展示や建設技術関連イベントやシンポジウムでの成果発表や中間報告を通して、一般市民や関係機関の職員への防災行政の施策の啓発に寄与できる。

報告書を作成して配布することでも、広報・啓発が図られるので、配布先としては、参加団体、委員各位関係、公共機関(高等教育機関、行政、県内図書館)などを予定している。

d) つながりのきっかけに

防災・減災については、他の社会的活動とともに、産・官・学・民などの多種多様な人々や組織団体の網羅的なかわりが必要とされてい

る。今回のコンテストでは、国・県・(福井)市の行政[官]、大学・高専の教員[学]、福井県防災士会[民]が実行組織体になったことで、防災・減災のソフト面で、県内において横断的組織のつながりのきっかけになり、今後それらの構築の一步になることも考えられる。

次回には、以下の3つの点に配慮したい。

第一は、防災・減災にかかわるのは、土木系の学問領域だけではなくて、より広い領域での知見の活用が望まれるところである。

第二は、防災マップの作成過程のノウハウや、さらに地域住民への広報・周知活動を含めた利・活用の状況を公開し、伝えることで、地域の防災力向上に寄与するため、数年で県内の各地で開催する方向で進める予定である。

第三は、チラシの配布先・方法といった広報・周知方法の検討である。

防災マップそのものについての課題点をあげる。第一に、マップであるから、ピクトグラムの統一化・規格化が課題としてあげられる。第二に、利活用状況の把握について、マップそのものの大きさ(携帯できる大きさにすることの是非)や更新情報の加え方などについてまとめる。第三に、災害の種類などや対象地域の広狭などのカテゴリーを再考する。そのなかで目的にあった最適な階層性の把握とハザードマップや隣り合う地域の防災マップとの相互のリンク・補完性の確保のための条件の洗い出しをする。

謝辞

本コンテストは、北陸建設弘済会平成 21 年度「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業の支援を受け、ここに謝意を表します。

参考文献

1) 『安全・安心のまちづくりを目指して』第 1 回ふくい防災マップコンテスト報告書 福井県防災士会(2010.03.03.)